

「春草通り」を歩いてみよう

《仲ノ町～二本松～旧飯田測候所》

橋北まるごと博物館研究会
2019作成



自疆社の碑
旧高野医院
加納家の紅梅
下伊那教育会館

春草通り

11 12 13 14 15 16 17

柳田家の門
糸桜
旧飯田測候所本庁舎
旧飯田測候所測風塔

天満宮
正一位七五郎稲荷

春草の郷

菱田春草
生誕地公園

旧黒須家の門
安東家屋敷
ウェルネスタウン
丘の上

丘の上MAP

① 日本福音ルーテル 飯田教会

明治41年 松尾町にフィンランドのサオライネン牧師が講義所(伝道所)を開設し、布教を開始した。大正13年10月、現位置に福音ルーテル飯田教会が建設された。昭和22年4月20日の飯田大火により焼失。(ここまで焼えたがこれより先は焼失を免れた。)昭和30年に再建され、現在の建物は平成3年に改築したもの。

② 認定こども園 飯田ルーテル幼稚園

明治44年4月 飯田藩医松井家(今の町現教育会館の位置)の建物を借りて創設。大正2年10月2日飯田幼稚園として正式認可。大正14年現位置に新園舎を建てて移転した。飯田下伊那の幼稚園としては最古。昭和42年4月飯田ルーテル幼稚園に名称を変更した。現園舎は平成3年に新築したもの。平成21年に創立100周年を迎えている。

③ 自彊社の碑(じきやうしゃのひ)

飯田中学の寮の跡。寮の名前が自彊社。碑は昭和46年1月飯田高校60周年時に建立。碑文「吾らの青春 ここにありき」。「自彊社」は旧飯田中学校の自炊団の1つで(他に尚志社、日東学生団、同志社、同流窟があった。)明治44年上郷に発足し、初代校長島地五六の死去後その生家に移転した。今のオールドウエストの位置と思われる。そのあと、社生の増加によって狭くなり、昭和になって飯田駅西(旧羽根垣外地籍)へ移転された。

⑩ 菱田春草生誕地公園

平成22年、橋北地区市政懇談会においてまちづくり委員会から、公園設立の申し出が行われる。橋北地区の中心とする署名、募金活動を契機に菱田春草の生誕地での公園整備が始まり、平成27年3月29日に「菱田春草生誕地公園」として開園した。作品に描かれた草木を植栽し、春草と親交の深い横山大観の書を使った記念碑や四阿、園路等からなり、春草を顕彰するとともに、作品をイメージすることのできる公園になっている。現在、公園は地域住民や市民有志により設立された「春荘公園を愛する会」を中心に維持管理されている。

⑪ 春草の郷

「春草公園を愛する会」が、公園東側の空き家となっていた店舗を平成27年5月に所有者から借り上げ、公園の維持管理や来訪者の便益施設として活用できるように整備し「春草の郷(さと)」としてオープンした施設。内装については、飯田OIDE長姫高校の生徒がデザインしている。現在、公園の維持管理以外に、同校の生徒による「高校生スーパー」としても活用されている。

⑫ 柳田家の門

柳田国男(民俗学の父といわれている)が養子に入った飯田藩士柳田家は、江戸藩邸で堀侯に仕えていたが、1859年(安政6年)8代目の東助為善(とうすけためよし)の時飯田へ帰され、新建(しんたて、現在の江戸町)の藩士宅で暮らした。その家の表門。質素な腕木門(うでぎもん)で引き分けの板戸。柳田国男自身は飯田に暮らしたことはないが、7、8回訪れ、郷土の歴史家市村威人(みなと)らと交流を持った。

④ ウェルネスタウン丘の上

平成27年に飯田病院によって建設された。サービス高齢者住宅・仲の町診療所・通所リハビリテーション・フィットネスクラブが入り、高齢者の多い地域との共栄を目指している。建設前は、喜久水酒造が本社と仲ノ町蔵を構えていた。

⑤ 旧高野医院

昭和4年建築の旧産婦人科医院。木造2階建ての擬洋風建築で大正ロマンを醸(かも)している。

⑥ 下伊那教育会館

昭和13年建築。昭和12年の下伊那教育会創立50周年を機に計画された。デザインは当時の郡役場(現在の地方事務所)を参考に建てられた。正面ドア上欄間に特徴的な文字のステンドグラス。この建物の資金は、飯伊地区1100人余りの先生方の募金による。現在、国の登録有形文化財となっている。

⑬ 糸桜

普門院の境内に枝垂桜があり、通称糸桜と呼ばれていた。明治41年(1908年)の台風で倒れ姿を消した。現在の桜は3代目。糸桜にまつわる伝説があり、この物語を聞いた10代目藩主の奥方成子が詠んだ歌碑が桜の根元に立っている。「むかし誰 うゑそめてかくいとざくらいとなくく 世にたえぬかほりそ」

⑭ 普門院跡

古くは宝塔寺と呼ばれていたが、堀親昌が飯田城に入った時に、城の鬼門除けの祈願所と定め普門院と改めた。明治維新の廃仏毀釈により、廃寺となり取り壊された現在は、石畳だけが残っている。寺の境内には、堀秀政、堀親良、堀親昌の三霊神が祀られており、これが現在の長姫神社の元となった。

⑮ 天満宮(天満天神社)

天満宮は飯田城主堀氏が、普門院の鎮守として大切にされた。現在の社殿は享保6年(1721年)に改築したもので堀家の家紋「丸に向梅」がつけられている。拝殿の向拝上部に「天満宮」の額が掲げられているが、文化14年(1817年)当代の名筆家阿部正精の筆になるもの。

⑦ 安東家屋敷

安東家は堀侯の家臣で、堀侯と共に現在地に移ってきた。代々槍術指南役をつとめ明治維新を迎える。以来、現在地に居宅を構える唯一の家系である。明治4年の廃藩置県の際、安東欽一郎は菱田鉛治(春草の父)と共に飯田城引き渡しの立会人となった。また、弟の安東貞美は陸軍大将、台湾総督をつとめるなど活躍している。

⑧ 旧黒須家の門

飯田藩の郡奉行(こおりぶぎょう)黒須楠右衛門(くろすくすうえうもん)の住居。赤字をなくそうと千人講を考え出したが百姓の怒りをかってしまう。廃藩置県後も黒須家が受け継ぎ、昭和21年(1946年)下伊那教育会へ譲渡され、下伊那教育会館の別館として使われている。平成24年(2012年)に、改修工事が行われている。現在、国の登録有形文化財として指定されている。

⑨ 加納家の紅梅

樹齢は400年といわれる。扇町動物園の紅梅と兄弟。3月中旬が見ごろ。

⑯ 正一位七五郎稻荷

明治15年に飯田遊郭が開業した。翌16年に商売繁盛を祈願し、遊郭の守り神として、京都伏見稻荷より勧請(神仏の分霊を迎えること)した。現在は二本松自治会で維持、お祭りを行っている。

⑰ 旧飯田測候所本庁舎

大正11年12月(1922年)竣工。翌12年1月1日に観測開始。平成14年5月に高羽町へ移転するまで約80年間ここで観測が行われた。平成19年国から市へ土地、建物の払い下げを受ける。平成24年国の登録有形文化財となる。本庁舎は建築当時の擬洋風様式を反映している。

⑰ 旧飯田測候所測風塔

現在の測風塔は昭和35年に鉄筋コンクリート造の事務所の上部に新設される。伊那谷の河岸段丘、中央アルプスから風越山、中心市街地、南アルプスと美しい風景が一望できる。耐震不足で閉鎖中。取り壊し後、地域では、自由に利用できる展望台を整備するよう要望している。